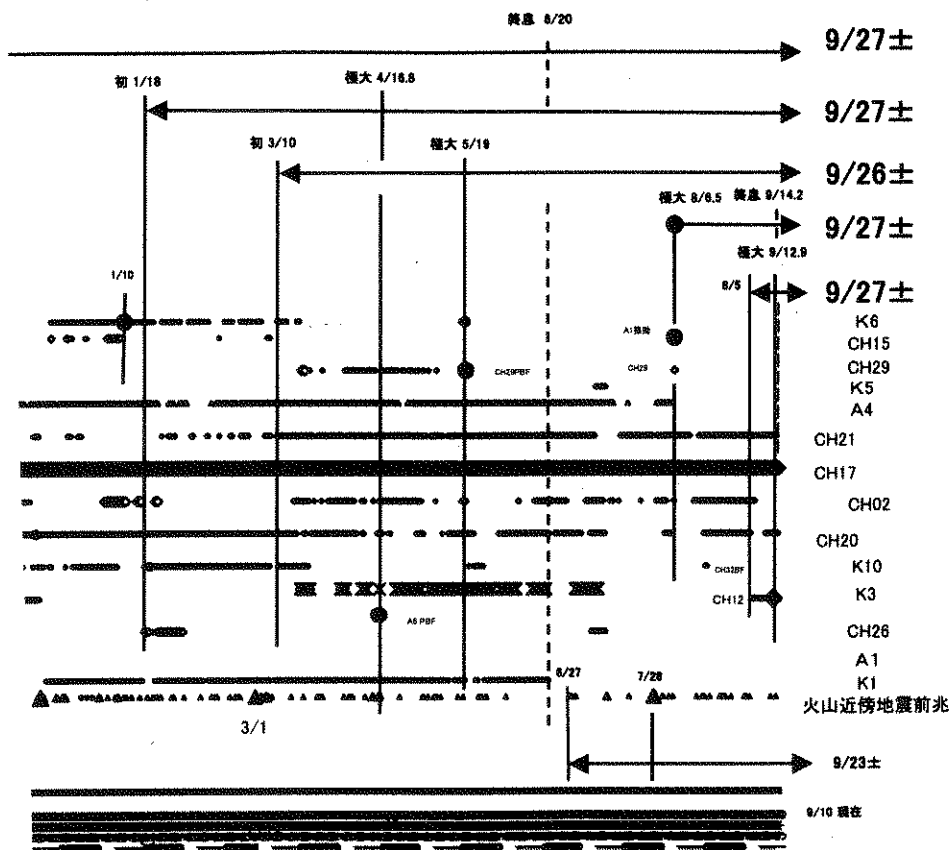


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778長期継続前兆続報 CH12特異出現 9/23午後迄前兆継続の可能性有



長期継続前兆No.1778は、現在までの解析から、早い場合、09月27日±発生の可能性が示唆されていますことは報告済みです。

但し、8/6.5が最終極大であった場合、9/13±に前兆終息が認められた場合のみ成立する関係です。

ところで、台風21号の影響で、9/5 山梨県の北杜市では停電が発生致しました。地域により停電時間は異なりますが、天文台がある地域は長く約6時間程も停電が続きました。

9/4までは正常だったハヶ岳のCH12が、停電復帰後のデータから異常となっていました。これは停電の影響で受信機に異常が生じた可能性があるとして見ましたが、以降のデータを見ますと、基線異常の中でも9/11夕刻と9/12深夜～13朝に特異状態がピークとなっていることが確認でき、受信機故障では無い可能性が高まりました。特異最大の中心は9/12.9±です。初現は9/5±の可能性が有ります。

初現9/5-極大9/12.9の関係をT<sub>fp</sub>:T<sub>map</sub>=20:13 経験則で計算しますと、9/27±が計算されます。T<sub>pp</sub>(前兆終息期間)は、3.8日±つまり前兆終息は9/23.6±と計算できます。左のNo.1778前兆図に入れますと、CH20, 17, 21共に前兆継続の可能性が示唆されます。本日CH21の基線が正常基線に見えます。CH12特異が正しければ、9/23午後まで前兆は消えないこととなります。消えた場合は9/27±発生の可能性となり、発生まで正味2～3日しかありません。24日迄観測し、継続の場合は発生時期修正の必要がありますが、HPで報告が間に合うか微妙です。注意して観測し、続報できる様に努力します。

前号で 8/6.5極大のCH29特異が勝浦局の可能性があり、現在の推定領域に勝浦からの特異出現円(経験値円)を加味しますと、今までの推定領域の西側の可能性が考え難くなり、左図の斜線領域内の可能性が示唆されることを報告させて頂きました。点線領域は影響局誤認の場合を含めた大枠推定領域。太線領域内が可能性が考えやすい推定領域で、火山近傍地殻地震前兆出現から、火山近傍領域の可能性が示唆されますので、推定域内火山から半径約40km内領域を斜線で示しました。この斜線域内に震央の全部又は一部がある可能性が示唆されることとなります。

◆推定領域: 左図点線領域+太線領域内=大枠推定領域  
斜線領域=可能性が高い推定領域

◆推定規模: M7.8±0.5  
(震源深さ20km±以浅の陸域地殻地震 直下型地震)

◆推定時期: 前兆完全終息後計算予定  
但し現状可能性が考えられる早い時期=9月27日±1  
(9月24日以降前兆継続の場合はより後日となるため修正)  
◇推定発生時刻: 午前9時±1時間又は午後6時±3時間

